

慶北大学 長期派遣留学帰国報告

応用生物科学部醸造科学科 4 年 小松萌乃

私はこの留学でかけがえのない経験をすることができました。語学、専攻の勉強、友人との交流という 3 つの側面から私の経験についてお話させていただきたいと思います。

まずは語学についてです。留学前に韓国語の基礎は習得したものの、いざ現地に行くと会話が滞ってしまったり、授業資料が読めなかったりという場面が多々ありました。状況解決のため、韓国語を多用する環境に飛び込むことにしました。教授に直談判をして研究室活動に参加させていただいたり、趣味のバスケットボールを通じて友人を作ったりととにかく会話の機会を増やすことを意識しました。現在は韓国語を勉強して 1 年半が経過しましたが、韓国語能力試験では上から 2 番目の 5 級を取得することに成功しました。また、授業や研究活動に以前より主体的に参加できるようになりました。スピード感のある習得を体験することができたと感じております。

次に、専攻の勉強についてです。日本と気候や文化が比較的似ている韓国の発酵食品についてさらに詳しく知りたいという思いで留学に挑みました。班ごとにテーマを設定して実験を実施する発酵食品学実験、その他にも魚介類や海藻類の特徴や加工用途について学ぶ水産加工学、乳の機能や発酵食品への利用について学ぶ発酵乳加工学などの履修を通じて食品全般に関する知識をつけることができました。また、発酵食品学の座学においては、日本ではなかなか詳しく学ぶことができないキムチやマッコリなどの韓国特有の発酵食品に触れる機会が多く、貴重な体験をすることができました。さらに、研究室活動に参加したことで、研究室規模の研究がどのようなものなのかも体験することができました。

次は、友人との交流についてです。授業を通して知り合った友人はもちろん、研究室やバスケットボールを通じてできた友人、交換学生向けの韓国観光ツアーなど様々な環境に身を置くことで多くの友人と出会うことができました。私は言語が堪能な方ではないため身振り手振りで意思を伝えることが多かったのですが、そのような中でも日本の文化や私自身に興味を持ってくれて温かく接してくださる方ばかりでした。そのため、友人たちとさらに仲良くなるため言語を修得したいと前向きに捉え、努力を積み重ねることができました。留学生活において日本が恋しくなったことは何度かありましたが、近くに友人がいたからこそ、乗り越えることができました。改めて留学で出会えたすべての人に感謝したいです。

今回の留学を通して私は行動し続けることの重要性を学びました。また、多様な価値観を持つ人と関わることの面白さを知ることができました。そのため、将来はグローバルな環境で仕事をしたいと考えております。現在、食品に関わる仕事をしたいと考えているのですが、まずは日本で基礎的な力を身に着けたうえで海外駐在に挑戦するというキャリアプランを思い描いています。基本的に海外の支社は本社よりも小さい規模感で、さらに社員一人一人の仕事量が

増えます。そのため、営業のみ、開発のみといった1種類の仕事のみならず多様な職種を並行して進めていく力が必要になっていくと考えます。今回培った語学力はもちろん、傾聴力や行動力などを発揮することで現地の方と円滑なコミュニケーションをとることができ、その結果、効率よくかつ仕事を進めることが可能になると考えます。留学で得た学びや力は将来において大きな手助けになるはずです。留学を検討されている方がいらっしゃいましたら、ぜひ積極的に挑戦してみてくださいと思います。

最後にはなりますが、今回の留学に際して関わってくださった方々、そしてこの文章を読んでくださった皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

